

第1学年国語科学習指導案

日時 平成15年11月12日(水)
学級 1年D組
(男子19名、女子21名 計40名)
指導者 岩淵 明子

- 1 単元名 五 古典と出会う 「竹取物語」「今に生きる言葉」
- 2 単元について

(1) 教材観

小学校でも、和歌や俳句など、古典の原文にふれる学習がわずかながら行われている。しかし、一つの単元としてきちんと向き合うのは、中学一年におけるこの単元が初めてである。

古典との出会いは、何よりも楽しいものでなければならないと思う。そして、発見や驚きのあるおもしろいものでなければならない。幸せな出会いができれば、生徒たちがこの後に得るところのもの～遠い昔の人間への興味・関心、人間としての普遍的なものへの目覚め、伝統文化の領域への踏み入れ、蓄積された先人の知恵の受容など～は大きい。古典は、それぞれの時代の人々の個性的な生き方・考え方を描いているが、同時に生きるための規範性も備えているがために、現代に反映し、現代人の心に深く入っていくことができる。古典との幸せな出会いを願って、この単元は設定されている。音読を基礎としつつ、教科書の中の絵なども活用し、楽しく活動できるように心がけたい。

「竹取物語」について、「源氏物語」の中で、「物語の出て来はじめの祖」と記されている。祖には、最初の意と優れたものの意の両方の意味が込められている。中学生となって初めて出会う古典が、この「竹取物語」であることは、この点からも意義のあることであるといえると思う。また、内容的に見ても、幻想、冒険、恋愛と親しみやすく、文体も簡潔でわかりやすい。最初の古典教材として適切なものと考えられる。

(2) 生徒観

学級は全体的に明るい雰囲気であり、男子の一部に授業に集中できない者もいるが、お互いに注意しあうなど学習態度は前向きであり、反応も良い。

国語の授業に関するアンケート結果(37名)をみると、

	良 い	どちらかといえ ば良 い	どちらかといえ ば悪 い	悪 い
国語が好きか	2人	18	7	10
国語は易しいか	10	7	7	13
読書が好きか	16	17	3	1

という結果である。朝読書の影響か読書好きが多く、特に女子は全員が読書が好

きと答えている。全般に女子に国語好きが多く、男子に苦手な生徒が多い。

また、「古典について知っていることを書きなさい。」という問いに対する答えには、「竹取物語」「源氏物語」「百人一首」「浦島太郎」「言葉が違う」「字が違う」「文末がけりとなる」などを上げており、古典については何らかの知識を持っている生徒もいるようだが、原文に接するのは初めての生徒が多かった。

身近な存在である古典に興味関心を持ち、進んで他の古典を読むような生徒を育てることを目指したい。

(3) 指導観

かぐや姫の物語は、幼い頃に耳にし、目にした可能性も高く、親しみのもたれやすい作品である。文体も簡潔で比較的読みやすく、教材として取り上げている部分は冒険譚の性格もあって、古典の世界へ入りやすいかと思われる。古文は現代文とそれ程大きく異なったものではない。文末の形や仮名遣いがかつとも大きな違いで、これに慣れると相当に読めるようになると思われる。古典入門期の今は、声に出して何回も読ませ、古典の持つリズムを感じとらせたい。

生徒が楽しく活動する場面を多く設定し、初めて学習する古典により親しみをもてるような授業を展開したい。

3. 単元の指導計画及び評価規準一覧表

時	学習活動	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
1	見開きの絵、竹取物語について	古典の世界に関心をもつ。かぐや姫のあらすじを思い出す。		
2	現代語のあらすじ	積極的に読み進めている。	竹取物語を概観する。登場人物を把握する。	
3	竹取物語冒頭	積極的に読み進めている。古典の文章と現代の文章の違いを見つける。	竹取物語の冒頭を音読し、読み慣れるとともに、内容を読みとることができる。	仮名遣い、文末表現、言葉の使われ方や意味の違いに気付くことができる。
4	竹取物語冒頭、現代語の部分	積極的に読み進めている。積極的に暗唱に取り組んでいる。	3人の貴公子が行ったことを読みとり、その人柄を推測する。	竹取物語冒頭を暗唱できる。
5	蓬萊の山の場面（前半）（本時）	注意事項に着目しながら積極的に読み進めている。	くらもちの皇子の冒険譚の内容を、古文を現代語訳へ、現代文へと対比させながら読みとることができる。	古典と現代文に使われる言葉の違いを指摘できる。
6	蓬萊の山の場面（後半）	注意事項に着目しながら積極的に読み進めている。	くらもちの皇子の冒険譚の内容を、古文を現代語訳へ、現代文へと対比させながら読みとることができる。	古典と現代文に使われる言葉の違いを指摘できる。
7	現代語の部分、発展	さまざまな古典の文章を探し、必要な情報を集めている。	竹取物語の結末を理解する。昔話の絵本や童話の原文を読む。	発展教材を自分の力で読み進めることができる。
8	今に生きる言葉	身近にある名句・名言に気付くことができる。	名句・名言や故事成語について考えを深める。	名句・名言に言い慣れる。
9	矛盾	積極的に読み進めている。	「矛盾」の由来について理解する。	漢文独特の言い回しに慣れる。
10	故事成語	名句・名言について調べた内容を、適切に発表している。	名句・名言や故事成語について調べている。	教材文中に挙げられている「推敲」「五十歩百歩」「背水の陣」などの語の由来を理解する。

4 本時の学習

(1) 本時の目標

- ① 「くらもちの皇子の冒険談」の前半部分を歴史的仮名遣いに注意して読むことができる。
- ② 古語の意味に注意し、主語、助詞等を補いながら書かかれている内容を読みとることができる。

(2) 本時の評価規準・評価基準

蓬萊の山の場面 (前半)	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
評価規準	注意事項に着目しながら積極的に読み進めている。	くらもちの皇子の冒険譚の内容を、古文を現代語訳へ、現代文へと対比させながら読みとることができる。	古典と現代文に使われる言葉の違いを指摘できる。
評価基準	A 古典の文章の文体や表現に関心を持ちながら、内容を読みとろうとしている。	文意を読み取ったうえで、古典の文章の文体や表現に関心を持ち、話者の表現の工夫を読み取っている。	仮名遣いの違い、今では使われない言葉、現代と意味が違う言葉を自立語において指摘できるうえに、付属語にも着目している。
	B 古典の文章を現代文に照らし合わせながら、文意を読み取ろうとしている。	古典の文章を現代文に照らし合わせながら、文意を読み取ることができる。	仮名遣いの違い、今では使われない言葉、現代と意味が違う言葉を自立語において指摘することができる。

B基準に達しない生徒（C判断）への支援

- 関心・意欲・態度・・・机間巡視中に寄り添い、一緒に指で文章を追う。
 読むこと・・・机間巡視中に寄り添い、現代文と古文を対応させる。
 言語事項・・・ノートから前時の学習を振り返らせる。

A基準へ引き上げる手立て

- 関心・意欲・態度・・・読みの練習を工夫したうえで、古文と現代語を対比させながら読ませる。
 読むこと・・・古文と現代語訳を対比させながら読み、内容を確実に読み取ったうえで、「くらもちの皇子がついたうその工夫」を問い、考えさせる。
 言語事項・・・文節に着目させ、「これや」の「や」、「山ならむ」の「ならむ」など、実は注目すべき言葉があることを指摘し、他にもこのような言葉がないかを問う。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点、評価
導入 10分	1 前時の復習 2 冒頭部分の暗唱 3 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 「竹取物語」の概略を確認する。 冒頭の原文を暗唱する 全員で暗唱する 指名して発表させる 冒頭の内容確認 本時の学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 成立時代、作者、特徴を確認 歴史的仮名遣いに注意させる 古語、主語、助詞に注意させる 原文で確認する 冒頭部分のまた前時の学習を想起し、学習課題を設定する。
展開 35分	4, 原文音読	<ul style="list-style-type: none"> 各自微音読をする(1回) 教師の範読を聞く 教師に続いて音読 微音読(2回) 一斉読み 指名読み 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力で仮名遣い等に注意して読んでみる。 自分の読みと、正しい読みを比べる。 隣と向かい合って、間違いを指摘しあいながら正しい読みを覚える。 机間巡視をしながら読めないでいる生徒に助言する。 前半と後半に分けて行う 古語に注意させる。 省略された主語・助詞を補わせる。 抜き出す場合は原文から抜き出す
	5, 内容理解	<ul style="list-style-type: none"> 教師が原文を読み、生徒は現代語訳を見ている。 代表生徒が現代語訳を読み他の生徒は原文を見ていて内容を理解する。 <p> { 天人のよそほひしたる女 これは、蓬萊の山なり うれしきことかぎりなし </p>	
終結 5分	6, まとめ 7, 次時予告	<ul style="list-style-type: none"> 内容を思い浮かべながら一斉に音読する。(2回) 自己評価(カードに記入) 「くらもちの皇子の冒険談」の後半部分を学習することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に付いている読み仮名を鉛筆でぬりつぶして見えないようにして音読する。 歴史的仮名遣いの読みも確かめる。 宿題として各自読む練習をしてくる。